

感染症についてのお知らせ

墨田区保健所 保健予防課 感染症係
電話 03-5608-6191(直通) FAX 03-5608-6507

令和7年
増刊号



東京都内の感染症流行情報

出典：東京都感染症情報センター「東京都感染症発生動向調査週報」

百日咳の最新情報 第14週（～4月6日）までの患者報告数

2025年は第14週までに396件の報告がありました。（昨年は年間395件）
東京都 14週 55人/週（前週40人/週↑）

→過去5年と比較しても、急激に患者数が増加しています。

年齢別でみると、特にワクチン効果が薄まる小学生～中学生に多く見られています。



百日咳が流行しています

出典：東京都感染症情報センター

◎どんな病気？

百日咳は、百日咳菌による感染症です。一年を通じて発生がみられます。
乳児の場合、無呼吸発作など重篤になることがあり、生後6か月未満では死に至る危険の高い病気です。症状が出たら早めに受診しましょう。

成人では、比較的軽い症状で経過することが多く、受診・診断が遅れ感染源になることがあります。乳児の周りでは特に注意が必要です。



◎どうやって感染するの？症状は？

主に、患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌によって感染します（飛まつ感染）。7～10日程度の潜伏期間を経て、風邪症状がみられ、徐々に咳が強くなっていきます（カタル期：約2週間）。その後、短い咳が連続的に起こり、咳の最後に大きく息を吸い込み、痰を出しておさまるという症状を繰り返します（痙咳期：約2～3週間）。激しい咳は徐々におさまりますが、時折、発作性の咳がみられます（回復期：2～3週間）。

◎予防や治療法は？

有効な予防法は予防接種で、予防接種法に基づく定期予防接種が生後2か月から行われています。

生後2か月に達したら、早めに5種混合ワクチン¹⁾を接種しましょう。

また、定期予防接種により百日咳の免疫を得ていても、小学校就学前にワクチン効果が薄まることのあるため、**小学生～中学生の方は、上記の症状があった際には特に注意をしてください。**

治療は、受診して処方されるお薬で、主にマクロライド系の抗菌薬で行います。



1) 2024年4月1日より4種（ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ）混合ワクチンにHibワクチンを含んだ、5種混合ワクチンが導入されました。